

事業実施報告

開催日	令和6年2月3日（土）		
事業名	テンパーク・ファミリークラブ～恵宝巻編～		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	47名
対象	小学生とその家族		
関係機関名			

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

〔事業の内容〕

本事業は、寒さのために外での活動の機会が減少してしまう時期に、冬だからこそできる雪を生かした活動や季節行事にまつわる体験の機会を設け、冬季ならではの体験活動の魅力に触れ、家族で継続的に体験活動を行いたいという意識を育むことを目的として実施した。

節分にあたる事業当日、午前中は雪の敷地内を歩く「雪上ウォーク宝探し」を行った。広い敷地内の各ポイントに、恵宝巻（恵方巻）の材料であるエビやあなご、かんぴょうなどの交換チケットが隠されており、地図をもとに家族で探しながらウォークラリーを楽しむ活動である。昼食では、節分の行事食として定着しつつある恵宝巻作りに挑戦した。巻きすを使ってのりと酢飯、具材を巻き、家族で1年の健康と幸福を願いながら食べた。昼食後には、そり広場の開放を行い、自由にそりやスノーチューブで遊ぶ時間を設定した。

〔成果〕

- ・雪上ウォーク宝探しでは、参加者たちは動物たちの足跡を見つけて喜んだり、スノーシューで踏む雪の感触を楽しんだりしていた。好天に恵まれ、雄大な岩手山を見ながら、白銀の世界を楽しんでもらうことができた。

- ・恵宝巻作りでは、巻きすの扱い方に苦戦しながらも、家族で楽しんで作っていた。節分の意味を知り、1年の福を呼び家族の健康と幸せを願うという恵方巻の由来（諸説あり）について知ってもらうことができた。

- ・そり広場の開放では、雪面の滑りが良かったため、参加者は歓声をあげながらそりやスノーチューブを何度も楽しんでいった。

- ・参加15家族中、7家族がテンパーク事業に参加するのが初めてであった。新規利用者を開拓し、テンパークの事業のファンになってもらうことができた。

- ・事業後のアンケートでは、事業全体に関する満足度については15家族すべてが「満足」と回答した。「雪上ウォーク宝探し」「恵宝巻作り」「そり広場の開放」のそれぞれの活動に関しても、満足度は100%であった。また、自由記述においても「恵宝巻を作る前にたくさん歩いて体がぼかぼかになりました。恵宝巻も1人1個子供も自分で作り楽しく貴重な体験ができました。」「岩手山が眼前にある絶景の中で、自然に囲まれてとても素敵な体験ができました。」などの記載があり、事業の目標を達成することができたと考える。

〔課題〕

- ・暖冬の影響で雪が少なく、スノーシューの必要性があまりなくなってしまう。雪上ウォークのコースも歩きやすく、想定より早くゴールした家族も多かったため、その時の状況に合わせて内容を柔軟に変更できるようにしたい。今後、雪の量に左右されるプログラムは、様々な状況を想定する必要がある。

- ・インフルエンザや新型コロナウイルス感染症などが流行する時期であるので、恵宝巻を手作りしてみんなで食べるというプログラムは衛生面（健康観察、手洗い・消毒、マスク、座席間隔など）に十分注意して実施する必要がある。

状況写真



「雪上ウォーク宝探し①」



「恵宝巻作り①」



「恵宝巻作り③」



「雪上ウォーク宝探し②」



「恵宝巻作り②」



「そり広場の開放」